

# 星野学園小学校新聞

星野学園小学校  
 埼玉県川越市上寺山 216-1  
 〒350-0826 Tel.049(227)5588  
 星野学園小学校  
 Web  
[www.hoshinogakuen.ed.jp/hes/](http://www.hoshinogakuen.ed.jp/hes/)

## 星野の特色ある教育 その2

### 国語

本校の国語では、大切にしていることが三点ある。

まず一点目は、日本語の基礎力の育成だ。語彙を増やすことに関して、児童が楽しみながら取り組むことができる活動を行っている。その一つとして、辞書引き活動が挙げられる。児童一人ひとりが自分の国語辞典を持ち、調べた言葉にマークをしていく。言葉を調べれば調べるほど、学習の跡が残るため、達成感と



付箋やマーカーを使った辞書学習



集めた情報をわかりやすくまとめていく

ともに「もっと調べたい」という意欲がわいてくる。

二点目は、思考力の鍛錬だ。論理的に考える力は、他教科にも通じる重要なスキルである。読書活動や読解演習に取り組むことで、文章を構造的に理解する練習をしている。例えば、要点をまとめたり、文章内の因果関係や具体と抽象の関係を見つけ出したりといった活動だ。また、テキスト「論理エンジン」を導入し、言葉を使って考えを

組み立てるトレーニングを、日常的に行っている。このテキストを使い、文章全体の構造理解だけでなく、一文単位での文法についても、小学生にも親しみやすい例文を扱いながら学習している。

最後に三点目は、コミュニケーション力の研磨だ。俳句やレポート、小論文等の「書く」活動、スピーチや鑑賞、ディベート等の「話す・聞く」活動を通して、自分の思考を言語化する活動を多く行っ



グループで音読劇の練習をする様子

ている。こういった活動において、題材として扱うテーマは様々である。学年・学級の興味関心に即したテーマに楽しみながら取り組む場合もあれば、高学年では社会問題を真剣に話し合うこともある。創造的な表現力を磨き、生活の中で実用的に求められる力を身につけていく。

以上の三点を通して、豊かな日本語力を備え、自分の言葉で考えて伝えることができる子どもを育てている。(大野)

### 理科

理科では実験・観察を通してどのような考え方ができるかを大事にしている。授業は、「課題の確認」「予想をたてる」「方法・注意事項の確認」「実験・観察」「結果」「まとめ」の順に進め、一連の流れが定着するように活動



花壇でスケッチをする様子



グループで実験をする様子

まとめ、「自分だけの参考書」作りの習慣を学ぶためだ。こうした取り組みから、日常生活にありふれる「当たり前」を自分の言葉で説明できる力を養っている。学習した知識をもとに、「なぜそうなるのか」という根拠を説明する力も大切である。また、実験では、たとえ失敗したとしても大切な実験結果と指導している。そこから何を学ぶか振り返ることは、自分で考える力を養うための大切な視点と指導している。(伊藤)



図工の時間に児童の手によってできあがる作品は、子ども達にとっても世界に一つだけの「宝物」だ。では、そのような「宝物」は、どのように作られているのか。本校の図工は、「自ら答えを出す児童」の育成を目指すために、自らが目の前にある素材と対話し、考え、表現したい想いを大切にしながら、制作方法を判断し作品を作る時間が必要だと考えるからである。



作るだけでなく、友達の考えを聴くことも大切!

二点目は、図工の授業の時間は、道具の準備から制作活動、片付けまで、できるだけ自分達で行うよう指導をしている。これは「自ら」制作活動を行うのだから、制作活動で使った場所や道具に感謝し、大切に扱ってほしいという願いをこめていっている。学年や単元によっては、自分達ではできないこともあるため、教員が見極めながら、指示を出していく必要がある。これらの指導によって、児童はのびのびと、そして自分の力ででき、愛着のある自分だけの「宝物」を作ることができるのだ。(佐藤)



作った作品は「宝物」!



# 星野の取り組み

## プロジェクター導入



設置されたプロジェクター

本校では、今年度四月に各教室にプロジェクターの設置と、Wi-Fi環境を整備した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、三月から臨時休校となつてしまい、すぐに授業で運用することはできなかったが、意外な場面で活躍をしてくれた。本校では、臨時休校中も児童の学力維持・向上と、自宅学習を継続的にを行うことを目的として、定期的にホームページ上へ休校中の課題としたプリントや動画を配信していた。学習バランスがとれるよう、主要となる五教科を中心に実技

教科も課題掲載を行った。体育のマット運動における技の説明や、図工の制作過程の説明、音楽の楽器演奏の説明をプリントだけで行うことはなかなか難しい。そこで、教員が実際に実演したものを教室のプロジェクターに映し、その映像に口頭で説明を加えた。電子黒板にもなるプロジェクターは、付属のペー

ンで、投影した画像の上から書き込むこともできる。プリント学習だけでは補えない部分だけを動画を通して学習することができるようになる。六月の学校再開時には児童から「すごい！教室にもスクリーンがある。」と喜び生活に近付けた環境で、各学年一週間に二回、約二十分間行った。コロナウイルスの影響で自宅学習に励んでいた子ども達にとって、学校生活がますます刺激あるものへと変わっていくだろう。(富田)

## ICTの活用 ~zoomでの取り組み~



担任がzoomで児童とコミュニケーションをとる様子

本校では、新型コロナウイルスの影響による臨時休校中に、児童と担任の先生との繋がりを大切にしたいという思いから、zoomを活用した朝のホームルームを行った。このホームルームは、朝の会と位置付けで、児童は制服や校内着、体育着で参加をした。しつ

なかつたことで、不安もあつたかと思われるが、ホームルームを行うことで、学校長と顔を合わせることができ、小学校の雰囲気より一層感じることができたようだ。このホームルームを通して、



一年生にメッセージを送る学校長の様子

む時間を共有すること、先生と児童のコミュニケーションだけでなく、児童同士のコミュニケーションを図ることができた。一年生は、一度も登校できてい

児童が新しい学年やクラスに馴染むことができ、学校再開時には安心して学校生活をスタートすることができた。臨時休校中は、予定していた学校・入試説明会も中止となった。しかし、希望される方を対象にzoomを活用したオンライン相談会が実施され、本校の取り組みについて、発信する機会となった。(我喜屋)

本校には、学校の七不思議がある。今回は、校舎の不思議について紹介する。「図工室の不思議な床」。授業をしていた児童が、床に落ちていた鉛筆を拾おうとした時、あ

る事に気付いた。「床の色がここだけ違う。」と言うのだ。たいていみると、その部分だけ音が違うのだ。いったいそこには何が隠されているのか。【写真①】

それは、この不思議の種明かしをしよう。実は、図工室の床の下には地下室があり、備蓄倉庫となつている。【写真②】災害時に備えて、全児童分の非常食と水、寝袋が保管されているのだ。この設備以外にも、大型自家発電機や校内十一カ所にAEDが設置されている。あらゆる事態を想定して児童の安全を守る校舎は、今日も児童たちを見守ってくれてい



【写真②】備蓄倉庫



【写真②】地下へと続く階段



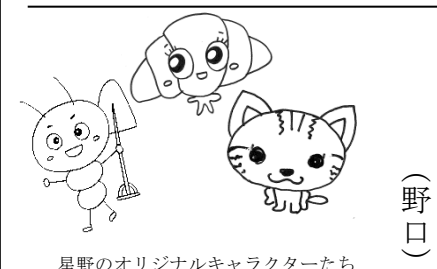
【写真①】一部分だけ違う床

る。【写真③】本校には、この他にも、秘密の設備がまだある。是非一度ご来校していただき、本校の七不思議を見つけていただきたい。(森田)



## 星野の七不思議? 校舎の秘密

## キャラクター紹介



星野のオリジナルキャラクターたち

ゆるキャラやアニメのキャラクター、テーマパークにいるキャラクターなど、現代社会において、我々と共生し、その地位を確立してきた。なんと、星野学園小学校にも、キャラクターが存在するとのことだ。しかも、それは一匹、二匹の話ではなく、「アーサー王の伝説」の円卓の騎士ではないが、確認されているだけで、十二匹もいるのだ。次回は、その真相を探るべく、星野学園小学校の教員の佐藤先生に取材を試みたい。乞うご期待。(野口)